

令和 6 年 9 月 20 日

独立行政法人 日本学術振興会 不正に関する告発等受付窓口 御中

筑波大学 システム情報系 准教授 掛谷英紀
東京理科大学 生命医科学研究所 教授 新田剛
東京理科大学 教養教育研究院 准教授 中村隆
東京大学 生産技術研究所 教授 梅野宜崇

西浦博京都大学教授の研究グループによる論文不正の可能性に関する告発

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび貴会の研究助成を受けている以下の 2 本の論文

- [1] Kayano et al., “Evaluating the COVID-19 vaccination program in Japan, 2021 using the counterfactual reproduction number,” Scientific Reports 13, 17762 (2023)
<https://doi.org/10.1038/s41598-023-44942-6>
- [2] Kayano and Nishiura, “Assessing the COVID-19 vaccination program during the Omicron variant (B.1.1.529) epidemic in early 2022, Tokyo,” BMC Infectious Diseases 23, 748 (2023)
<https://doi.org/10.1186/s12879-023-08748-1>

について、研究不正の可能性を排除できないため、論文内容の検証のために協力をお願いしたくご連絡申し上げます。[1]は JSPS KAKENHI (21K10495, 21H03198, 22K19670)、[2]は JSPS KAKENHI (21H03198, 22K19670)の支援を受けていると論文に記載されております。

当方、これらの論文について不審な点を見つけて検証作業をしており、その内容はプレプリント論文

<https://www.medrxiv.org/content/10.1101/2024.02.02.24302123v1>

https://www.researchgate.net/publication/382657626_Transmission_model_and_arithmetic_of_dynamical_systems

の形で発表するとともに、論文検証サイト PubPeer

<https://pubpeer.com/publications/C8F81075DD67059C6CA7E76D420608>

でも問題提起しております。さらに、令和 6 年 9 月 10 日～13 日に開催された日本数理生物学会の企画セッション「数理モデルによる COVID 感染者数予測の検証」

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsmb2024/content/plansympo>

では、上述の論文を中心に著者らがこれまで行った COVID 感染者数予測を多様な角度から検証し、学会の参加者たちと問題意識を共有しているところであります。

当然ながら、論文に不審な点を見つけた場合は、まずは著者に連絡するのが順序であると心得ております。そもそも、上記論文[1]の Data availability の項には“Hiroshi Nishiura should be contacted to request the data from this study.”（本研究のデータをリクエストする場合は西浦博に連絡すること。）と書かれています。それゆえ、既に繰り返し論文著者に論文内容の確認・追試のためのソースコード公開を要求しているところではありますが（添付資料 1，2）、何度連絡をしても一切返事が得られない状況です。当初は依頼の電子メールが読まれていないのではないかと考えておりましたが、最近 [REDACTED] が同じメールアドレスに [REDACTED] のメールを送ったところ、速やかに返信がなされたとの情報を得ました（添付資料 3）。つまり、上記の論文の著者は意図的にソースコードの提供を拒否しているものと考えられます。

もちろん、ソースコード提供の拒否をもって、すぐに論文に不正があると結論づけることはできませんが、論文で示されたデータに合理的な疑いがある以上、著者は自らの研究の過程を開示することが求められます。具体的には、第三者に検証可能な形でデータを提供すること（ソースコードの開示が無理なら、少なくとも実行ファイルの開示）が必要と考えております。こうした透明性の確保は、健全な科学研究活動の維持に不可欠です。特に、当該論文の著者の研究グループは、COVID パンデミック下の感染対策について社会的に強い影響力のある発言を繰り返しており、その根拠となる研究結果に誤りがあるとすれば、その責任は甚大です。

国民の税金を原資に上記研究を支援した立場として、当該論文に不正があったか否かを検証できる形でデータを開示するよう、貴会から論文著者に強く指導いただけますと幸いです。

なお、添付資料 3 は [REDACTED] のご厚意により提供されたものです。[REDACTED] から提供されたという経緯を含め、個人情報の保護・秘匿については細心の注意をお払いいただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

以上、よろしくお取り計らいほどお願い申し上げます。

敬具